

令和6年度  
第70回指導者会議

・開催日

令和7年3月8日(土)

・開催方法

対面およびオンライン会議

・会議プログラム

日本学連における今後の指導者施策

1. 総務委員として指導者に期待したいこと  
IDカードの不正利用問題、学生競技者の競技を見せて収益を得ている自覚
2. 競技委員会として指導者に期待したいこと  
競技会に関する指導者からのクレームを阻止するための情報共有工夫

・演者

プログラム1

障子 恵(総務委員会 委員長)

プログラム2

羽田 雄一(競技委員会 副委員長)

・司会

船原 勝英(倫理委員会 委員長)

本稿では会議の概要について報告する。

【プログラム1】

・競技会の環境整備

障子) 競技者が安心して競技に集中できる環境を整える必要がある。したがって、来場者をIDで管理している。学生については会員証の提示、日本学連の関係者や来賓・スポンサーの方は受付での顔認証、報道関係者も事前申込の上、当日は名刺の提示により入場を許可している。監督、コーチ、チームスタッフについて、監督については確認するシステムがあるが、コーチ、チームスタッフについては無い。

・チームスタッフの制限

2020年以降、エントリーしている選手の人数からチームスタッフのIDカード発行枚数を制限している。もちろんチームスタッフの中でも学生のスタッフは正会員のため、会員証の提示により中に入ることができる。ちなみに2022年より日本インカレはチケットを1枚2,000円で販売している。過去3年間のチームスタッフのID発行枚数は、各年800~900枚で、単純計算で4日間ともチームスタッフが来た場合、6,400,000円/年の入場料収入が

本当はあるということになる。

#### ・不正入場とハラスメントの事例

不正入場の例として、会員証や ID を回して入場するという事例が多く見受けられる。学生においても学生証をコピーして不正をしようとする人がある。また、階段を上って、そこから落として ID を使いまわすという事例も多発している。これは学生だけではなく、チームスタッフでも非常に多い。コーチ陣でも不正入場しようとしてくるケースがある。つまり、誰が入場しているのか特定できない環境がここにできている。ハラスメントの事例としては、ID を持っていないにもかかわらずコーチだからという理由で入場を認めるよう学生幹事や補助員に恫喝するようなことが過去にあった。

#### ・チームスタッフ登録制度の導入

どの立場でこの競技会に来ているのか、そしてその来ている方は所属大学が認めているのかということをしかりと把握するために、登録制度の導入を提案したい。具体的には顔写真付きの ID の発行である。これはコーチ、スタッフ、監督だけではなく正会員、普通会员も含めて考える。そして、ID 発行の際に登録料をいただくことも考えている。学生に関しては学連登録の際に、登録料を払っているのでそれを会員証の費用とする。登録制度ができれば指導者に正確な情報を届けることが可能になる。参考までに日本陸連では加入団体成立要件における指導者資格、審判資格の義務化ということで、「小学生もしくは中学生が登録する一般の加盟団体において、指導者資格および審判資格保持者が 1 名以上登録していること」ということが 2027 年度より適用される。これはルールを知っている指導者がチームに所属してジュニアを育成しようというところが目的だと認識しているが、大学では現時点ではこちらは適応外となる。しかしながら、正しい知識を持って、きちんとしたスタッフによる指導、部の運営が好ましいと考えるので、先駆けて日本学連でも導入したらどうかと考えている。

#### ・ディスカッション、質疑応答

質問：女性のコーチ資格を持っている者の確保や、小規模校や地方でコーチ資格を有している者の確保は厳しいのが現状だがどうお考えか。

障子) 女性でコーチ資格を有している者を確保するのは今後の課題である。

質問：日本学連が主体となってやるのはいいことだが、日本学連には 8 つの地区学連があるため環境の違いがあったりすると思う。普通会员の登録の把握でさえ学生幹事に負担がかかっている。地区学連を含めコーチの登録制度は一朝一夕ではできない話かと思う。

障子) 今回提案させていただいたが、今年度からすぐやるということは現実的でない。しっかりと体制を整えたうえで何らかの形で登録をするシステムを作ったらどうかという提案である。

質問：該当者はどういう理由でコーチとして選出されたのかということまで書く必要は出てくるのか。

障子) その大学が該当者をコーチとして認めているという事実を確認できれば良いと考え

る。

## 【プログラム 2】

### ・初めに

羽田) 競技会に関する指導者からのクレームのほとんどは正しい情報が伝わっていないことに起因していると思われる。そのため、情報が共有される工夫が必要である。また、各大学で開催されている競技会の運営も学生に任せるだけでなく、指導者自身もルールに則った大会運営になっているかを意識する必要がある。特に WRk 申請を行っている競技会についてはより注意が必要である。

### ・競技会参加にあたって

競技会に参加するにあたって、競技規則の内容をルールブックや陸連 HP で把握していただきたい。合わせて、連合の HP に掲載している各種事項では競技会の運用について詳細に記しているの、そちらも確認をお願いしたい。さらに、競技会中に変更点が出た場合は、メール等でのお知らせもしている。2024 年の日本インカレでは「競技注意事項」等の変更点を参加校に事前連絡したが、出場選手にしっかり伝わっている大学もあれば、全く伝わっていない大学もあった。さらに一部指導者からは、そんな連絡見るわけがないと非難された。しかし、「競技注意事項」を変更する理由は、WRk 大会を行う上で必要なことであったり、競技者の負担軽減のためであったりするので、そのことを理解していただく上で、必ず確認してほしい。

### ・競技規則について

ルールブックや日本陸連 HP での確認は各自で行う仕組みだが、日本陸連が毎年 2 月に実施している「全国競技運営責任者会議」にて各陸協・団体へ競技規則の修改正について伝達している場がある。これはルール改正があったことを知らせるものである。2 月～3 月にかけて、各陸協で伝達講習会も実施している。学連も幹事長・副幹事長が参加している。日本学連でも加盟校向けに伝達講習会、具体的には動画を作成し何度も視聴できるようにしたらどうかと考えている。また、先ほど障子総務委員長からもお話しがあった通り、指導者登録制度を取り入れた場合、登録された指導者にも動画の配信をすることが可能になる。

### ・競技会中の講義

抗議に来る際は、感情的にならず冷静な状態でかつルールを把握したうえで来て欲しい。

### ・WRk 競技会開催にあたって

2026 年以降に WRk 競技会の審判長・審判主任は WA レフェリー資格者（ブロンズレフェリー以上）を配置することが求められることになるかもしれない。指導者資格の制度とともに、指導者の審判資格取得についても今後検討していく必要が出てくる可能性がある。

### ・ディスカッション・質疑応答

質問：何か記載を変えた際は太字でアンダーラインを引くとか伝え方をもっと工夫すべき。長く書くと誰も読まないの、シンプルな箇条書きで文字数をできる限り減らして、

注意を引くようにすべきである。

羽田) 最終的には競技注意事項を読んでいない方が悪いという思いがこちらにあったことも否めないで、もう少しわかりやすく表現するという工夫の必要性を感じ、ご意見を参考に変えていきたい。

**【本シンポジウムの感想】**

参加者) この会を通して現場の先生方、そして指導者としての役割をなしていない方もいるという現実を感じた次第だ。対校戦となると自分のチームの選手の出場が大きな役割を果たすかと思うが、そこにコール漏れのような事象があると少し感情的にかかわってしまう方がいてそれはどうかと思う。現場の指導者がタイムマネジメントをするというスタッフとしての役割が全くなされていない。これから考えていかなきゃいけないテーマなのかなと思った。